

ロガーからHDS への最初のCisco ICM 履歴データの複製

目次

[概要](#)

[はじめに](#)

[表記法](#)

[前提条件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[HDS でのレジストリ設定](#)

[履歴データの保持](#)

[ImageArgs レジストリキー設定](#)

[関連情報](#)

概要

履歴データは、ロガーから Historical Data Server (HDS) に複製されます。これは、クライアント/サーバ機構です。レプリケーション サーバ プロセスは、Cisco Intelligent Contact Management (ICM) ロガーで動作し、ピア レプリケーション クライアント プロセスは ICM HDS で動作します。

HDS の初期インストール時に、ICM ロガーのレプリケーション サーバと HDS のレプリケーション クライアントは、すべての HDS テーブル データの開始ポイントを確立します。開始ポイントは HDS のレジストリ設定によって異なります。このドキュメントでは、HDS での最初のレジストリ設定について説明します。

[はじめに](#)

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

[前提条件](#)

このドキュメントの読者は次の項目に関する知識が必要です。

- Cisco ICM データベース
- Microsoft SQL Server データベース

[使用するコンポーネント](#)

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco ICM 4.1 5 以降
- Microsoft SQL Server バージョン 6.5 および 7.0

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのような作業についても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

HDS でのレジストリ設定

HDS 管理ワークステーション（AW）を構築する際には、HDS データベースのサイズを設定して作成する必要があります。履歴データがデータベースに保持される期間は、HDS データベースのサイズに影響します。テーブルで保持期間を設定できます。

履歴データの保持

Cisco ICM ソフトウェアは、各 HDS AW の消去プロセスを 1 日に一度行います。デフォルトでは、パージプロセスは毎日深夜 12:30 に実行されます。このプロセスでは、指定した日数より古いコードが削除されます。Cisco ICM データベースを設定するとき、それぞれの履歴テーブルにデータを保持する日数を指定できます。次の表に、履歴データ保持のデフォルト設定を示します。

履歴テーブル	デフォルトの保持期間
Application_Event、 Config_Message_Log、Event	14 日
Admin、Recovery	30 日
他のすべての履歴テーブル	100 日

すべてのテーブルのデフォルト保持時間は、次のレジストリ キーにあります。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\GeoTel\ICR\<cust_inst>\Distributor\  
RealTimeDistributor\CurrentVersion\Recovery\CurrentVersion\Purge\Retain
```

注: 上記の値は、スペースの制限上 2 行で表示されています。

2 レベル下にドリルダウンし、特定のテーブルのレジストリ キーを選択して [Days] をダブルクリックし、その値を新しい保持期間に変更します。

図 1: レジストリ エディタ

ImageArgs レジストリキー設定

HDS データベースがロガー データベースと同期されると、ImageArgs レジストリ キーの設定に基づき、ロガーから HDS の各データベース テーブルにデータが複製されます。

レジストリ キー

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\GeoTel\ICR\<cust_inst>\Distributor\  
NodeManager\CurrentVersion\Processes\rpl\ImageArgs
```

ImageArgs :

```
/db <HDS database name>/client/name <ICM Logger node name>/  
  replicationport40026/recoveryport40028/all
```

注: スペースの制限のため、上記のキーは 2 行で表示されています。

ロガーから HDS に複製されるデータの種類は、ノード マネージャ スイッチ /all の設定によって決まります。/all が設定されている場合、ロガーは古い履歴テーブルを HDS に複製します。/all が設定されていない場合、ロガーは古い履歴データをスキップし、サービスがオンになった時点からの新しいデータのみを複製します。/all スイッチをオンにするには、[ImageArgs] をダブルクリックします。文字列エディタが表示されます。行の最後に /all スイッチを入力し、[OK] をクリックします。

図 2： 文字列エディタ

注: /all スイッチは HDS データベースが空である場合にのみ機能します。つまり、HDS で Cisco ICM プロセスが初めて起動する前に、上記のレジストリを設定する必要があります。そうでない場合は、HDS データベースを再構築する必要があります。

図 3： レジストリ エディタ

[関連情報](#)

- [ロガーおよび HDS ログ保持およびパージ設定の識別と変更](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)